

2025年度 第8回12月期定例番組審議会議事録

1. 開催の日時 2025年12月10日(水)
2. 開催の場所 栃木放送本社会議室
参加できない委員には資料を送付して番組をお聞きいただき、意見・感想を返信してもらう形式で開催。
3. 委員の出席 委員総数9名
返信総数2名
出席総数7名

出席委員名	委員長	増田仲夫
	委員	竹内明子
	委員	若井明香
	委員	高橋久夫
	委員	小川俊彦
	委員	井出智子
	委員	北條俊明
	委員	白石智子
	委員	桐生典夫

4. 議 題

- (1) 「大田原マラソン実況中継」

放送日 2025.11.23 9:00~13:00

- (2) その他

5. 議事内容

- (1) 「大田原マラソン実況中継」について

番組視聴：放送した番組を各委員に送付して試聴して頂きました。

議題説明

番組概要

大田原市内で毎年11月23日に開催されている「大田原マラソン大会」の実況中継番組。大田原市からの協賛で、フルマラソン（男女）のレースを実況するとともに交通規制の情報等も伝えた。コースはDIスタジアム（美原運動公園陸上競技場）発着、大田原市内広範囲。外部協力者（車両運転等）も含め20名以上が関係する、大規模な野外実況中継。

試聴番組内容

11月23日（日）9時00分～13時00分（号砲10時）

合計4時間の番組を、約40分のダイジェストにまとめた。

・オープニング ・男女レース決定的な場面 ・フィニッシュ ・エンディング

番組構成

9時～10時＝大会概要、交通規制等の紹介

10時～12時40分頃＝フルマラソン実況

12時40分頃～13時＝レース振り返り、まとめ

実況中継の体制について

中継車1 コースにて男子先頭実況

中継車2 コースにて女子先頭実況

バイク コースにて遊軍的に動き先頭とのタイム差等を伝える。

競技場本部 番組進行、レース展開まとめ、交通規制情報等

出演者

中継車1 解説：伊藤哲二（日体大OB、箱根駅伝4度出場）アナ：斎藤巖

中継車2 解説：鈴木賢一（順大OB、箱根駅伝3度出場）アナ：岩下方彦

バイク アナ：中里弥菜

競技場本部 解説：中山勝行（埼玉陸協）アナ：藤田真奈、小暮智

備考

大会は、男子が23年ぶりの大会記録更新で、栃木陸上競技協会の大田和一斗選手が優勝、女子は澤島朋美選手が3連覇を果たしました。

弊社のラジオ中継としては、例年から各担当者を刷新して望みましたが、大きなトラブル等なく終えることができました。

一方で、競技場本部席の真後ろに設置された大会本部（大田原市）のスピーカー音量（競技場MC）が大きく、音声に聴きづらさが発生しました。大会前の打ち合わせや機材設置の段階では、該当スピーカーを使う旨の告知は大会本部からありませんでした。

弊社と市側の調整不足が原因で、来年度以降の反省点として活かしてまいります。

各委員からは

- 実況では選手の走りやコースの上り下りなどがよく伝わり、男子・女子の記録更新の状況や5キロ地点でのタイムと順位も把握でき、レース展開がイメージしやすかったと感じました。一方で、大会本部の音声が大きく聞き取りづらい場面があり、デジタル技術で調整できなかったのか工夫がほしかったと思います。また、市民マラソンらしい仮装ランナーや一般参加者の様子も紹介されると、地元らしさがより出た放送になったのではないかと感じました。
- 私は、今回40分に凝縮された素材を試聴したため、本来4時間に及ぶ中継をどのような工夫で視聴者を離さずに展開したのかが気になりました。短縮版としては非常に良かったのですが、実際の放送運びに関しては疑問が残りました。
- 私は、栃木にこれほど大きなマラソン大会があることを初めて知り、ラジオでマラソンを聴くのも初めてでしたが、アナウンサーの臨場感ある実況のおかげでとても楽しく聴くことができました。特にトップが入れ替わった場面の語り方が印象的でした。一方で、男女が同時に走るため、どちらの選手の話なのか分からなくなることもあり、フルネームで伝えてもらえると分かりやすかったです。選手インタビューからは走った人の思いが伝わり胸が熱くなりました。反面、大会本部のスピーカー音が非常に大きく残念でした。交通規制情報は地元ラジオらしくありがたかったですし、アナウンサーと解説の声ややり取りも聞きやすく好印象でした。
- 今回の放送は非常にこなれていて良かったと感じました。この大会は日本陸連公認でレベルも高く、男女に明確な実力差がある点も自然なことだと思います。特に優勝者インタビューは大会への思いや背景をうまく引き出して印象的でした。また、招待選手と一般選手の紹介にメリハリがあると、より大会のレベルや盛り上がりが伝わったのではと感じました。全体としてテンポも良く、非常に良い中継だったと思います。
- イベント本部音声が大きく、その音が放送席マイクに拾われ過ぎていて非常に聞き苦しく、不快に感じた。マイク感度が高すぎるのが原因ではないかと思い、途中で聞くのが嫌になるほど残念だったと感じました。一方で、斎藤アナウンサーや小暮アナウンサーの声は聞きやすく、プロの上手さを実感したとも述べています。また、解説の中山氏も非常に良く、4局中継の進行もとてもスムーズで好印象だったと感じました。

○私は、事前に伺っていた大会本部付近のスピーカーの大音量が、やはり実況に大きく影響し、非常に聴きづらかった点が残念に感じました。次年度は改善をお願いしたいと思います。一方で、本部席の実況は落ち着いた話しぶりや解説者への流れの作り方が良く、安心して聴けました。中継車からのレポートでは、通過地点の案内が言い直される場面もあり、経験が求められると感じました。また、この大会が公式記録の認定を受ける伝統ある大会と知らず驚きましたが、競技の臨場感をしっかり伝える良い中継で、今後の大会の盛り上がりにもつながると感じました。

○私は会場のスピーカーの大音量が気になり、内容の多くが頭に入っていない状況でした。今回の方式は初めてだったようで、本部でも音量調整ができず、実況の音の中継マイクに直接乗ってしまう配置だったことが原因のようです。来年度も同じ形式で行うのであれば、スピーカーや本部席の位置調整など、市側との連携改善が必要だと感じました。また、MCの盛り上げ方とラジオ中継の雰囲気ズレがあり、聞きづらさや集中しにくさも強く感じました。交通規制情報など重要な案内が聞き取れない場面もあったため、この点も次年度の大きな改善点になると考えました。

○大規模イベントの生中継を経験できたことは良い機会で、関係機関との調整など課題はあったものの、綿密に対応されていたと感じ、お疲れ様と言いたい気持ちです。事前取材の内容をもっと紹介できれば、視聴者にも分かりやすかったと思います。平成元年からの長い放送経験が蓄積され、マラソン中継のスキルが生きていたと感じ、今回の教訓も次に活かしてほしいと思います。駅伝と違い有名選手が少なくイメージしづらい面があるため、事前取材の活用が重要だと考えます。また、今年から始まったチーム対抗の紹介もあると、より面白い放送になったのではないかと思います。

○スタジアムのスピーカーの音量が大きすぎた点が、今回の放送における最大の課題であったと思います。また、33km地点でのトップ選手の入替わり時、実況が時系列と合わず、選手間の距離感の把握が困難になったことが指摘されました。電波状況などで中継が難しい場所がある場合は、その旨を伝えるなど対応が必要だと思いました。一方で、実況・解説間のやり取りは非常に分かりやすく、特に解説の方が、選手のランニングフォームの特徴（例：登りに適したフォーム）と、レース後の選手のコメントが一致していた点良かった。

当社としては、これらの意見をもとに、今後の番組制作や広報に取り組んでいきたい旨を、各委員に伝えた。

(2) その他

12月1日からAM休止となり社長よりその経過報告。

またとちぎテレビ様がAM休止の一日を密着取材した放送を番組審議委員の皆様へ報告。

6. 審議内容

上記の通りであり、特に審議決定し、答申すべきものはなかった。

7. 番組審議会の見解の概要の公表

- ① 当社の番組「栃木放送からのお知らせ」(2025年12月28日)
- ② 当社のホームページに掲載(2025年12月29日)
- ③ 当社事務局に議事録備え置き(2025年12月29日～)

以上